

## 概観

### 【政治・社会】

- ・ 先月、国民議会議席獲得に必要な最低得票率は一律4%へ引き戻され、これによって野党連合「Blue Coalition」が国民議会の議席を獲得する可能性が高まったが、月末には中央選挙管理委員会が「Blue Coalition」の総選挙届け出を受理しないという事態が起こり、同連合の受難は続いている。
- ・ 欧州委員会、EU資金（ISPA）1.15億ユーロの凍結を解除。
- ・ バスの暴走による交通事故が契機になり、バス会社の安全管理や免許の金銭による売買等の問題が取り沙汰された。

### 【経済】

- ・ 金融危機の影響は特に観光業への影響が著しい。業況感指数や株価からは底を打った感はあるものの、政府は引き続き困難な状況は続くと予測、公共事業の規模見直し等による緊縮財政をとっている。
- ・ 一方、エネルギー分野では、ベレネ原子力発電所建設へのロシアからの融資が決定。

### 【我が国との関係】

- ・ 秋篠宮同妃両殿下のブルガリア御訪問（5月13～16日）

この月報はブルガリア各種メディアの報道ぶり等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

## 政治・社会

### 1. 内政

#### ◆Blue Coalition：欧州選挙へ参加。 総選挙届け出は不受理に。

▶UDFとDSB（いずれも野党右派）は3月に連合結成を合意、「Blue Coalition」として総選挙に臨むことになっていた。しかし、ディミトロフUDF党首の進めるDSBとの協力に反発するユルコフ前UDF党首一派が、中央選挙管理委員会に対しUDF単独での欧州議会選挙の届け出を行って受理されたため、「Blue Coalition」としての届け出ができなくなるという事態が生じていた（ユルコフ前党首は4日、UDFから追放された）。

▶12日、最高行政裁判所は中央選管がユロコフ前党首の名の下での欧州議会選挙への届け出を認めたことは不適切であったとしたため、欧州議会選挙については、両党はBlue Coalitionとして

届け出を許された。

▶しかし、28日、中央選管が今度は総選挙への「Blue Coalition」の届け出を拒否、UDFは右決定を不当として直ちに最高行政裁判所に提訴した。

#### ◆総選挙：議席獲得のための最低得票率は一律4%へ

▶12日、憲法裁判所は、先月行われた選挙法の改正の中で、総選挙に於ける議席獲得に必要な最低得票率を政党間連合に限って従来の4%から8%に引き上げた規定について、不適切と判断した。（小選挙区制の一部導入については、改正がそのまま認められた。）

▶これによって、「Blue Coalition」が総選挙に参加できれば、国民議会議席を獲得する可能性がより高くなった。（注：ブルガリア現政権はブルガリア社会党（BSP、左派）を中核とする左派・中道大連立政権。一方、7月5日の総選挙に於いて第一

党と目されているのは新興右派政党 GERB だが、単独での政権獲得は難しいとみられており、その他の右派諸政党との右派連立政権が樹立されるのか、現与党である BSP との大連立となるのかが注目されている。）

## 2. 外政

### ◆EU 資金の凍結一部解除

ヒューブナー EU 地域政策担当委員は、ブルグチエヴァ EU 資金担当大臣に対し、ブルガリアの EU 資金管理問題については、公共運輸等の部門で注目に値する改善が見られたとの趣旨の書簡を送付、12 日、EU 資金 (ISPA) 1. 15 億ユーロの凍結が解除された。

## 経済

### 1. マクロ経済

#### ◆外国投資

ディミトロフ経済・エネルギー大臣は、今年の外国投資は GDP 比約 7%程度になると述べた。今年は金融危機の影響により昨年 (GDP 比約 18%) からの大幅な減少が予測されていたが、再生可能エネルギー分野 (風力発電、太陽光発電等) への投資が活発であり、思ったほど減少はしないと述べている。

#### ◆失業率が 7%に

4 月の失業率は先月より 0. 16%悪化して 7. 04%となった。260, 693 人が登録失業者となっており、雇用庁も金融危機の影響が本格化してきたと述べている。マサラロヴァ社会福祉・労働大臣は今後更なる景気の悪化が見込まれるものの、今後は失業率は 7%前後で推移するであろうと見通しを述べた。

#### ◆対外債務削減

ブルガリア対外債務は 3 月末時点で 364. 1 億ユーロとなり、前月より 4. 18 億ユーロ減少した (ただし年率換算で見ると約 20. 4%の上昇)

## 3. 社会

### ◆大規模交通事故の発生

▶28 日、ヤンボル近郊の山道でバスが道を外れて暴走、同日は正教の祭日で多くの露天商や通行人がいたため、16 名が死亡、15 名が怪我を負った。事故の原因は明らかではないが、ブレーキの故障が原因ではないかと見られている。

パルヴァノフ大統領、スタニシェフ首相、ジェレフ保健相は 29 日のスケジュールを全てキャンセルし、地元入りした。

▶また、政府は 29 日を国民が喪に服する日と定め、選挙活動、祭事は全てキャンセルされ、半旗が掲げられた。

▶メディアでは事故の発生を契機に免許獲得の際の収賄や不正の告発が相次いだ。

と中銀が発表した。これまで増え続けていた民間部門での債務が前月より 0. 9%減って 39. 8 億ユーロとなったためと見られている。

### ◆業況判断指数が 3 ヶ月連続で上昇

ブルガリア投資庁の発表によると、5 月の業況判断指数は 12. 6%となり、2 月の 9. 7%から 3 ヶ月連続の上昇となった。鉱工業部門では 0. 4 ポイント改善され、経営陣も昨年 12 月よりも今後の見通しを楽観視している。建設部門では 2. 5 ポイントの上昇となったものの、小売部門では 5. 2 ポイント、サービス部門でも 0. 6 ポイント下落している。

### ◆フィッチ・レーティングスがブルガリアの格付けを引き下げ

フィッチ・レーティングスはブルガリアの長期外貨建て格付けを BBB- に、自国通貨建て格付けを BBB とし、その見通しを安定からネガティブへ下方修正した。同社はブルガリアの 2009 年経済成長をマイナス 5%と予測し、それに伴い経済収支赤字は 12%改善されると予測している。

## 2. その他

### ◆ベレネ原子力発電所プロジェクト

ベレネ原子力発電所のプロジェクト総額は約9%のインフレ率によって20~25%増えるとアタナソフ・プロジェクトマネージャーは述べた。したがって約50億ユーロの資金が必要となるが、ロシアのプーチン首相は本プロジェクトへの38億ユーロの融資を決定、これにより、2~3ヶ月以内に電力公社とドイツRWE社が国内にジョイントベンチャーを立ち上げ、8~12ヶ月以内に工事が着工される見通しとなった。

### ◆観光客数が減少

ブルガリアを訪問する外国人観光客数(4月)は前年同月比で5.4%の減となっている。統計局発表によるとブルガリアを訪問した外国人旅行客は485,817人であり、ウクライナとノルウェーか

### 我が国との関係

### ◆秋篠宮同妃両殿下のブルガリア御訪問

▶5月13日~16日、日・ドナウ交流年2009、及び日本・ブルガリア外交関係再開50周年の日本側名誉総裁である秋篠宮殿下が妃殿下とともにブルガリアを訪問された(ブルガリア側名誉総裁はパルヴァノフ大統領)。

▶14日には、パルヴァノフ大統領表敬及び午餐会、ピリンスキ国民議会議長御接見(ヴェリコフ・ブルガリア・日本友好議連会長同席)、16日には、サクスコブルグ前首相と御接見された。また14日午後には、小学1年生から日本語学習を必修としているソフィア第18総合学校、ソフィア大学日本学科を御訪問、生徒、大学生らとの交流の場を持たれた。同日夕刻には、竹田大使公邸に於けるレセプションに御出席され、日本との交流に尽力されているブルガリア人及び在留邦人と親しく懇談された。

らはそれぞれ22.4%、18.4%増加している。またブルガリア人の海外旅行客数は5.9%の増となり、特にギリシャ、ポルトガル、ルーマニアへの旅行客数がそれぞれ76.2%、66.4%、33.9%伸びている。

### ◆高速道路建設に目途

ソフィアと黒海沿岸のブルガス、トルコを結ぶトラキア高速道路とマリツァ高速道路の建設に対し欧州委員会より建設の許可があり、2013年に双方とも完成する見通しとなった。トラキア高速道路は全長443キロのうちすでに280キロが完成している。またソフィアとギリシャを結ぶストルマ高速道路も2013年までに完成する見通し。

▶15日、両殿下は、日本政府からの無償資金(約3億4千万円)によって建設されたハスコヴォ市アレクサンドロヴォ村の東ロドピ山トラキア美術博物館センター開所式に御出席された。秋篠宮殿下は、本博物館がブルガリアの歴史遺産の保存・継承・研究に寄与し、両国の文化・学術交流の更なる発展に繋がることを祈念する旨ご挨拶された。歴史学者でもあるパルヴァノフ大統領も同式典に出席し、多くの人々がこの興味深い歴史遺産を見るために訪問することを期待すると述べた。

▶その後両殿下は、スモリヤン及びシロカ・ルカ村にて、ロドピ地方の伝統工芸、郷土料理、民俗芸能をご鑑賞になり、誘われて踊りの輪に参加、村民から大きな拍手を受けられる等、素朴で暖かなブルガリアの一般市民との交流を楽しまれた。

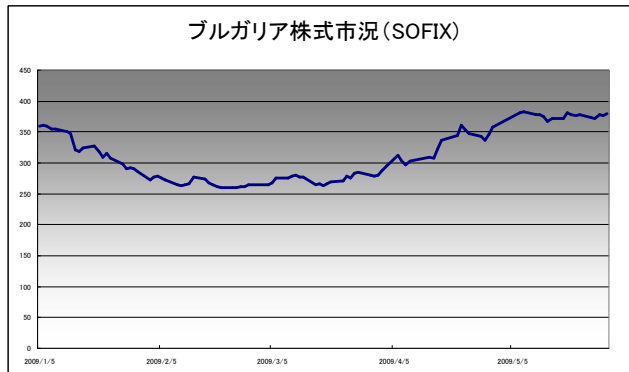
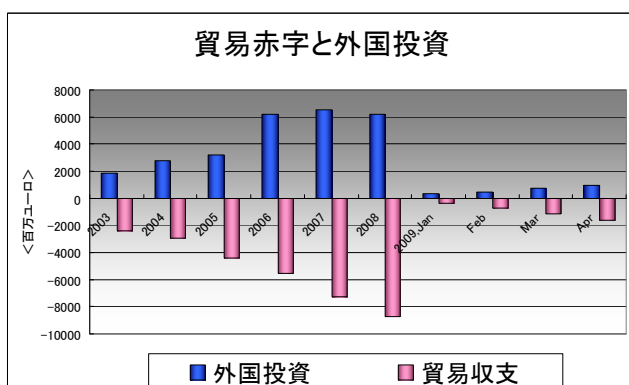
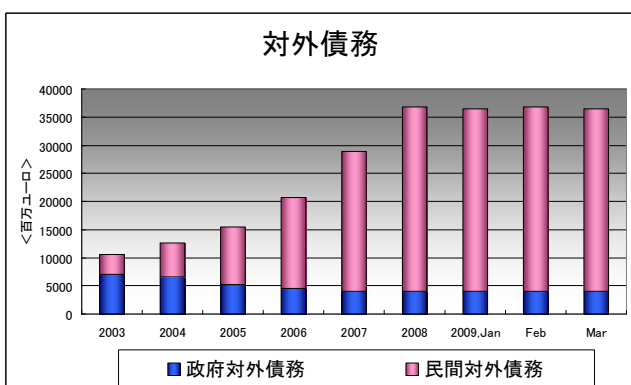
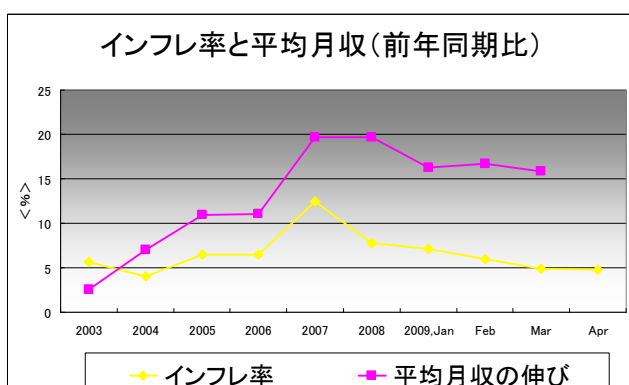
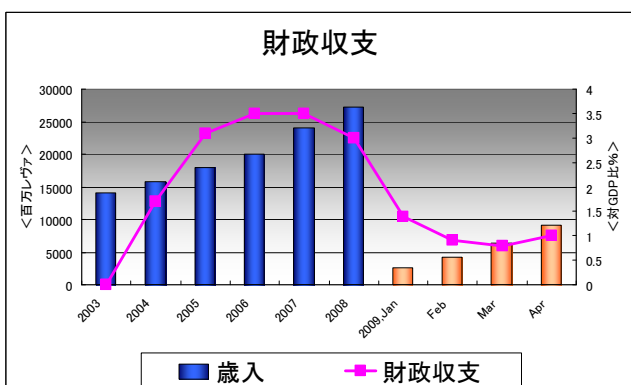
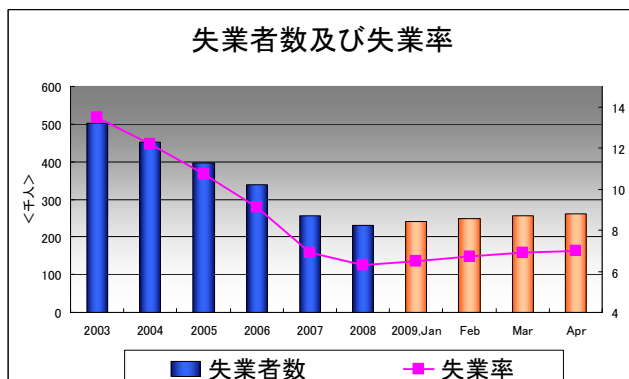
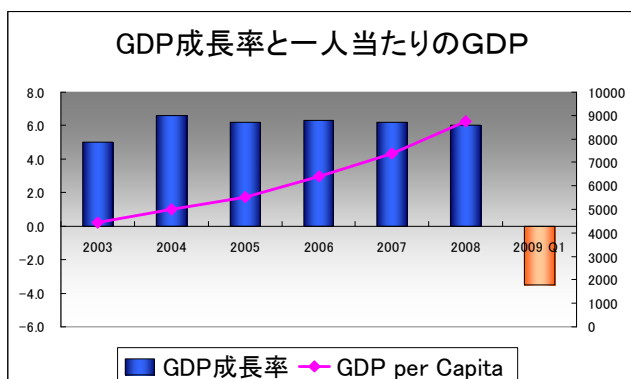
## ブルガリア内政・外交の動き（2009年5月）

在ブルガリア大使館

1（金）	
2（土）	
3（日）	
4（月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国際会議「文化遺産と文化多様性の保存について：グローバル化の中で」（ソフィア）：パルヴァノフ大統領の提唱により開催。45カ国が参加。（～8日）</li> <li>●ブラメン・ユルコフ前UDF党首：UDFを追放される。</li> </ul>
5（火）	
6（水）	
7（木）	☆スタニシェフ首相：東方パートナーシップに関するEU首脳会合出席（プラハ）。
8（金）	
9（土）	
10（日）	
11（月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆カルフィン外相：第119回欧州議会大臣会合出席（マドリード～12日）</li> <li>●ヒューブナーEU地域政策担当委員：ブルグチエヴァEU資金担当大臣に対し、ブルガリアのEU資金吸収について、公共運輸等の部門で注目に値する改善が見られたとの趣旨の書簡を送付。</li> </ul>
12（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヒューブナー委員・ブルグチエヴァ大臣：EU資金（ISPA）1.15億ユーロの凍結を解除</li> <li>☆キム韓国議会議長：ブルガリア訪問。（～14日）</li> <li>●最高行政裁判所：中央選挙管理委員会の決定を覆し、「Blue Coalition」へのUDFの参加を認める。</li> <li>●憲法裁判所：改正選挙法が、議席獲得のための最低得票率を政党間連合に限って8%に引き上げた（通常は4%）ことを不適切と判断、一律4%へ引き戻された。</li> </ul>
13（水）	★秋篠宮同妃両殿下：ブルガリアご訪問。（～16日）
14（木）	●世銀：教育の近代化等に2億ドルのローン供与決定
15（金）	●欧州議会選挙候補者リスト、各党から出揃う
16（土）	
17（日）	
18（月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆トウルク・スロベニア大統領：ブルガリア公式訪問。首脳会談でナブッコパイプライン及びサウスストリームパイプライン計画につき協議。両計画はバルカン地域の発展、欧州エネルギー安全保障上重要な計画との見解で一致。スロベニア大使館をソフィアに設置合意。（～19日）</li> <li>☆ブルガリア・ルーマニア・セルビア三国内務大臣会合開催（～20日）</li> <li>●カルフィン外相、欧州議会選挙に出馬のため、大臣職を休職（～6月7日）</li> </ul>
19（火）	●ソマリア沖で海賊に捕捉されていた16名のブルガリア人船員が無事に帰国
20（水）	☆在バレンシア・ブルガリア総領事館開館。スペイン在住のブルガリア人は約12万人、内4万人が新領事館の管轄となる見込み。
21（木）	
22（金）	☆パルヴァノフ大統領：バチカン訪問。ベネディクト16世に御接見。マルタ騎士団のフェスティング騎士団長らとも会談。（～23日）
23（土）	
24（日）	
25（月）	☆ウィレム・アレクサンダー蘭皇太子：「Water Supply and Sanitation of Small Population Centres in the Black Sea Region」地域首脳会合出席（議長）のためブルガリア訪問。パルヴァノフ大統領と会談。両国は本年外交関係100周年。

26 (火)	
27 (水)	<p>☆ガリード・スペイン外務・協力省 EU 担当長官、ブルガリア訪問。明年のEU議長国としての優先事項につきパシ・欧州担当大臣と協議。</p> <p>●BSP (連立与党左派)、NMS P (連立与党中道) 国民議会 5 名が他ポスト就任、議員を辞職。</p>
28 (木)	<p>●ヤンボル郊外で交通事故 (バスが暴走)。死者 16 名、けが人多数が発生。</p> <p>●中央選挙管理委員会、「Blue Coalition」の選挙登録を拒絶</p>
29 (金)	<p>●ブルガリア政府：27 日の大規模事故犠牲者を悼み、国民の喪に服する日と定める。</p>
30 (土)	
31 (日)	

# ブルガリア経済指標（2009年5月）



出所：統計局、中銀、ソフィア証券取引所

## 2009年5月ブルガリア経済指標

### <GDP成長率と一人当たりのGDP>

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009 Q1
GDP成長率 (%)	5.0	6.6	6.2	6.3	6.2	6.0	-3.5
GDP per Capita (euro)	4426	4989	5529	6411	7379	8753	

### <失業者数及び失業率>

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009, Jan	Feb	Mar	Apr
失業者数 (千人)	501	451	397	338	256	232	241	248	255	261
失業率 (%)	13.5	12.2	10.7	9.1	6.9	6.3	6.5	6.7	6.9	7.0

### <財政収支>

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009, Jan	Feb	Mar	Apr
歳入 (million BGN)	14070	15855	17991	20023	24063	27317	2616	4267	6400	9101
財政収支 (million BGN)	0	1.7	3.1	3.5	3.5	3	1.4	0.9	0.8	1.0

### <インフレ率と平均月収>

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009, Jan	Feb	Mar	Apr
インフレ率 (前年同期比 : %)	5.6	4	6.5	6.5	12.5	7.8	7.1	6	4.9	4.8
平均月収の伸び (前年同期比 : %)	2.6	7	11	11.1	19.7	19.7	16.3	16.7	15.8	

### <対外債務>

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009, Jan	Feb	Mar	Apr
政府対外債務 (million euro)	7074	6585	5198	4555	4092	4104	4047	4016	3981	
民間対外債務 (million euro)	3592	6073	10309	16074	24763	32625	32398	32803	32430	

### <貿易赤字と外国投資>

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009, Jan	Feb	Mar	Apr
外国投資 (million euro)	1851	2736	3152	6158	6517	6163	296	437	750	955
貿易収支 (million euro)	-2426	-2954	-4410	-5562	-7245	-8758	-343	-693	-1139	-1604